

第5回保育部会研究委員報告書

浜田市保育連盟会長 山崎 央輝			保育部会長 宮本 ゆかり（れんげ保育園）		
開催日時	令和6年2月21日	開催場所	浜田市総合福祉センター ボランティア室	記録者	牛尾 みゆき （浜田ひかり保育所）
	14:00 ～ 16:45				
出席者	おぐに、うみかぜ、三隅、みのり第2、くもぎ、浜田ひかり			欠席者	なし

1. 協議内容

- ・前回のアンケート集計を踏まえて、今後主体性の研究を通してやってみたい、または自園で取り組み始めた事はあるか、意見交換を行う。

< A園 >

- ・給食の量を自分で考えて、自分ですべて配膳する事にした。
- ・クラスを移動して、異年齢で交流して食べる。
- ・クッキー作りのクッキングが、5歳児クラスでレストランごっこに発展した。年下児はジュース屋さんごっこが流行った。

< B園 >

- ・取り組みたいとは思っているが、何から始めたら良いか迷っている。

< C園 >

- ・職員が協力的なので、やってみようと思えばできると思う。

※アンケート後から実際に取り組み始めた園もあれば、すでに取り組んでいる園、まだの園と、園によって状況が違う。園の中でも、担任によってやり方、考え方が違うという課題はあった。

◎異年齢での活動について

< D園 >

- ・異年齢保育をしていきたいが、行事はどのように取り組んだら良いのか？

< A園 >

- ・異年齢を3グループに分けて、ダンス、表現、合奏・合唱をしたり、年齢別で劇をしたりしたこともある。コロナ流行により、各クラスに戻った。
- ・今は、幼児クラスは縦割りの活動が出来ているが、乳児クラスは難しい。

< B園 >

- ・保護者に活動を理解してもらうことも大切。

< C園 >

- ・担任によって活動に差が出る。外遊びに積極的でないクラスもあり、晴天に室内にこもってしまうこともある。

※アンケート集計の結果と今回の情報交換から、主体性保育は、子どもの「やりたい」を担当がどれだけ拾えるか、が大切になってくると考えた。「やりたい」事をやってみる経験を繰り返すことで、なんでもやりたがるようになると思う。

やってみないとわからない、やってみてわかることがある。という観点から、今回の研究発表のサブタイトルを「当たり前を見直そう」にしてもいいのではないかと、という案が出た。当たり前の捉え方も、個人によって価値観が違う。保育士間で悩んで答えが出ない時は、子どもの声を聴いたら良いのではないかと、という意見も出た。

◎アンケートについて

- ・「0，1歳児の主体性は調査しなくて良いのか」という幼児教育センターの先生の指摘を受け、同様のアンケートを0，1歳児の担任にもお願いすることにした。
- ・アンケートは、2月27日送付、3月15日締め切り。

※次回は3月21日（木） アンケート結果を持ち寄る。



アンケート結果の集計をもとに、意見交換を行った。
次回は0，1歳児対象のアンケートを集計する予定。